

2025 年度一般選抜試験問題

国 語

注 意 事 項

看護学部志願者とリハビリテーション学部志願者では解答すべき問題が一部異なる。

看護学部志願者は ～ と を解答しなさい。

リハビリテーション学部志願者は ～ を解答しなさい。

- 1 マークシート式解答用紙が1枚ある。受験番号欄に受験番号5桁を記入し、マーク欄の該当するところをマークしなさい。

(例) 受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークして下さい。

受験番号				
0	0	6	0	3
●	●	○	●	○
1	1	1	1	1
2	2	2	2	2
3	3	3	3	●
4	4	4	4	4
5	5	5	5	5
6	6	●	6	6
7	7	7	7	7
8	8	8	8	8
9	9	9	9	9

氏名を記入してはならない。なお、記入した受験番号やマークが誤っている場合や無記入の場合は、国語の試験が無効となる。

- 2 マークシート式解答用紙に科目名を記入し、その科目コードをマークしなさい。

科目名	国 語		
<input type="radio"/> 英語	<input type="radio"/> 数学 I ・ 数学 A	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> 基礎学力試験
<input checked="" type="radio"/> 国語	<input type="radio"/> 生物基礎 ・ 生物		
	<input type="radio"/> 化学基礎 ・ 化学		
	<input type="radio"/> 物理基礎 ・ 物理		

I 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

人間は、より事実に近いことよりも、自分が信じたいと感じたことを信じてしまう傾向を持っている。これは人間の精神機能のすばらしい側面でもある。私たち人間は、論理のみによって思考するのではなく、感情による支えを持って思考する。感情とは、人間を人間らしくする最たる機能であり、感情をシャショウして人間精神を語ることはできないし、感情は決して邪魔ものでもムダなものでも阻害要因でもなく、人間精神の中核に位置するものである。もしも感情の機能を排除するならば、私たちは正しい判断をほとんどできないだろう。人間の思考で用いられる論理など児童に等しいセツレツなものであり、論理だけで判断できることなどほとんど存在しない。

だからこそ、ある情報に感情をかきたてる要素が混入している場合、その内容が事実と著しくかけ離れていたとしても、私たちはそれを信じてしまったりする。感情はよいシシンを提供してくれるものの、ひどく間違うこともある。特に、恐怖、嫌悪、忌避、などの感情は、私たちの精神に備えられた精妙な早期警戒機能の発露であり、多くの場合、論理を超えて発生する。

生存し続けることは、おそらく生命体としての人間の主要な目的の一つである。したがって、生存し続けるうえで阻害要因となるものは、それが非論理的であろうがなかるうが、回避しておくことに越したことはない。「I」というのは、生命体の生存戦略としてはほぼ万能であるとさえ考えられる。もしかしたらその対象物に接近すれば利得があるかもしれないし、論理的には利得があるだろうと高い確率で推測されたとしても、それを「コワイ」「キモい」「嫌い」と忌避するのは、利得を過小に評価し、損失を過大に評価するからである。たとえ間違ったとしても、想定していた利得を得られなかっただけなので、生存には関係ない。「生存第二」という生命体の戦略は、したがって、損失を過大評価しがちとなる。なぜなら、生命体にとっての損失とは、その生存確率の減少でしかなかった時代があまりにも長く続いたからだと思われる。

また、私たちは、人に好かれたり、認められたり、注目してもらいたいと願ったりするあまり、誰かに何かを言う際には、少し誇張したり、余計な部分を削ったりなどの加工を施して報告したりもする。特に、ネット上でのブログ、Twitter、

Facebook などの記述は、「見てもらうために」「褒めてもらうために」「ウケるために」「いいね！を押してもらうために」そのように加工されている場合が少なくない。

そのこと自体は決して指弾^cされるようなことではないだろうし、たとえネット上ではない日常会話であっても、私たちはそれと意識しているか否かとは別に、多少は情報をそのように加工して報告しているはずだ。しかしながら、ウケを狙って加工された報告は、それ自体が汚染されているといえる。一つ一つはちよつとした誇張であったりするわけであるが、それが積もつていくと、情報内容が歪め^{ゆが}られ、事実とは異なることが流布^dすることになったりもする。

「情報」とひと括りにして表現しているものの、それが示す概念は少し複雑な構成を持っている。一般に情報とは、インフォメーション(information)の訳語として用いられることが多いが、他の単語に関しても同様だが、必ずしも日本語と英語のあいだで対応がとれているわけではなく、情報は、必ずしもインフォメーションという意味でのみ用いられるわけではない。

まず、インフォメーションとは、inform(通知)されたものという意味を持っている。つまりなんらかのデータが通知されたときに、それがインフォメーションとなる。通知されるということは、そこになんらかの経路が介在することを意味している。経路とは、たとえばそれを知らせた人であったり、それが掲載されている媒体であったりする。

さらに、インテリジェンスもインフォメーションと同じく情報と訳されることがあるが、それらが示すものはかなり異なっている。諜報機関^{ちようほう}などで用いられるインテリジェンスには、「はかりごと」諜^ちという漢字に見られるように、そこに意図や解釈が含まれることを示している。

インテリジェンスやインフォメーションが、そのままの状態で利用されることはなく、そこには、それらを受け取った人間の解釈が必ず伴う。その解釈とは、それらインテリジェンスやインフォメーションとしての情報から、その本質部分であるデータを抽出することを意味している。

この構図は、情報汚染の基本的な図式であるが、インテリジェンスやインフォメーションとしての情報に含まれる意図や解釈は、多くの場合、決して邪魔ものでも汚染でもなく、あなたがそれらを解釈するとき役に立つ有用なヒントでもある。

ある事象にまつわるデータは無限に存在する。無限のデータをすべて把握することは不可能なことなので、私たち人間はそのうちのきわめて少ない側面をデータとして抽出することになる。そうしなければそれを有効に利用することさえできないからだが、このとき、そのデータの抽出者の意図が介在する

II

がある。というよりも、必ず介在する。もしもあなたが組織の意思決定に関与する立場であるとするなら、そのような事情はよく理解できるだろう。あなたが所属する組織が取り扱うデータは大量であり、そのすべてを一人の人間が把握することなどできない。だから、それぞれの部署でデータを取りまとめ、それに解釈を施して、あなたに報告することになる。そのとき情報はピラミッド型の階層構造になっているはずで、その頂点に近い位置にいる人間は、その下層部分からもたらされる「処理済の情報」をもとに意思決定を行うことになる。

たとえば「一年間にオフィスで消費される筆記具の総数」などを知る必要はほとんどないし、そのような「生なまに近いデータ」を提示されても、どうしようもない。だから「各オフィスの個人ごとの文具費」というように、処理された形の情報が必要となる。つまりそれが「加工され、抽出され、処理された情報」ということであり、インフォメーションとしての情報である。しかしインフォメーションとしての情報は、それを報告する人間がなんらかの意図のもとに抽出し加工したものであるから、純粋なデータとは異なっている。ここが重要なポイントである。あなたの部下が優秀な人間であるなら、その経路でもたらされる情報は有用であるはずだが、世の中には必ずしも優秀な人間ばかりではないし、あなたに悪意を持っている部下さえ存在するはずだ。だから、その情報もたらされる経路の質がとても重要である。

抽出したデータがなんらかの方法で他の人に報告されたとき、それはインフォメーションとなるが、そのとき報告すべきものとして選別するのは報告者であり、そこにまた意図が介在する。また、データやインフォメーションを基礎として、なんらかの解釈が行われ、それが報告される場合があるが、それがインテリジェンスと呼ばれる。この場合も当然、そのインテリジェンスとしての情報を作成した人間の意図が介在する。

III

、それらの情報を受け取った側が行う解釈の度合いの量は異なるものの、まったく意図が関与しない情報を受け取ることはないということだ。また、受け取った情報にどのような解釈を施すかは受け取った側の知識や能力にイインンソソンするるので、

同じデータを見ても、同じ報告を聞いても、それらをどのように理解するかは、人によって異なる。

〔高田明典『情報汚染の時代』による〕

問1 傍線部(ア)～(オ)に該当する漢字を含むものを、次の各群のa～eの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

1
5

(ア) シヤシヨウ a 下二桁をシシヤゴニユウする

1 b ケイシヤのゆるやかな坂道

c 疑いが晴れてシヤメンする

d 実験器具をシヤフツ消毒する

e 不祥事を深くチンシヤする

(イ) ムダ a タイダな生活を送る

2 b ダキヨウテンを見つける

c 政治がダラクする

d この本はダサクだ

e ダソクを加える

(ウ)

セツレツ

3

- a セツソクを旨とする
- b 自然のセツリに従う
- c 道路をフセツする
- d おセツカイを焼く
- e セツナテキに生きる

(エ)

シシン

4

- a 野球のシンパンをする
- b 健康シンダンを受ける
- c 特許をシンセイする
- d シンボウ強く練習をする
- e 時計のビヨウシンが壊れる

(オ)

イソン

5

- a イカンの意を表明する
- b 仕事をイニンする
- c 法律にイキヨする
- d 部下をイロウする
- e イダイな功績を残す

問2 傍線部A「人間の精神機能」とあるが、これについての説明として**適当でないもの**を、次のa～eの中から一つ選びなさい。

い。 6

- a 事実に近いかどうかにかかわらず、自分が信じたいことを信じようとする傾向がある。
- b 恐怖、嫌悪、忌避などのネガティブな感情によって、間違った情報から身を守ろうとする。
- c 物事を正しく判断するうえでは、論理的な思考に比べてより重要なよりどころになる。
- d 物事を判断する際に適切な方向性を示す一方で、早まって大きく誤ることもある。
- e 感情をかきたてる要素が混じっている情報に対しては、より妄信的になる傾向がある。

問3 空欄 I I Ⅲ に入る語として最も適当なものを、次の各群のa～eの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

い。 I 7 · II 8 · III 9

- | | | | | | | |
|-----|---|------------|---|---------------|---|---------------|
| I | a | 君子危うきに近寄らず | b | 虎穴に入らずんば虎子を得ず | c | 二兎を追う者は一兎をも得ず |
| | d | 情けは人の為ならず | e | 下手な鉄砲も数撃てば当たる | | |
| II | a | 必然性 | b | 可能性 | c | 普遍性 |
| | d | 特異性 | e | 利便性 | | |
| III | a | むしろ | b | しかし | c | たとえば |
| | d | それとも | e | つまり | | |

問4 傍線部B「『生存第一』という生命体の戦略」とはどうすることか。その説明として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

10

- a 人間の生存確率を高める行動を進んでとり、利得のないものは生存し続けるうえでは不要だと判断して無視すること
- b 人間の生存を左右すると推測される損失の回避を、なんらかの利得がありうる場面においても優先して行動すること
- c 人間の生存に有意な利得にこそ損失が隠れていると判断し、そのような利得に注意を払いつつ用心深く立ち回ること
- d 人間の生存にとって高い確率で利得があるものを追求し、利得のないものは損失につながると判断して回避すること
- e 人間の生存にさほど脅威とならない損失をも阻害要因とみなし、一方で生存に有益な利得以外には手を出さないこと

問5 傍線部C・Dの意味として最も適当なものを、次の各群のa～eの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

C 11

・ D 12

C 指弾

- a 悲観的に考えること
- b 正しいと認めること
- c 非難して退けること
- d 広く賛同を得ること
- e 原因を追求すること

D 流布

- a 著しく増えること
- b 一部で定着すること
- c 不意に現れること
- d 大多数を占めること
- e 広く知れ渡ること

問6 傍線部E「処理済の情報」とあるが、これはどういうものか。その説明として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

13

- a 不確実な内容を含むデータを排除し、有益なデータを追加することで信頼性を高めた情報
- b 無限に存在するデータを選び抜き、その場に応じて必要とされる姿に変形させた情報
- c 膨大にあるデータをふるいにかけて、一人の人間が処理できる数にまで精選した情報
- d 組織に有用なデータを抽出し、関係者以外が読み取れないように暗号化を施した情報
- e データを最新のものに更新し、実務の現場で安心して活用できるように加工した情報

問7 傍線部F「ここが重要なポイントである」とあるが、ここから筆者が言おうとしていることとして最も適当なものを、次の

a～eの中から一つ選びなさい。

14

- a 情報の受け手は、情報の調達を報告者に頼っているため、その出どころを知るすべがなく、情報の出どころが不明なまま判断を下すことになるということ
- b 情報の受け手は、情報を取捨選択する行為を結果的に報告者に任せてしまうことになるため、自分自身で有用な情報を選り出す力が身につかなくなるということ
- c 情報の受け手は、情報を自ら選別するわけではないため、報告者の作為や力量によって、有用な情報を受け取れるかどうかが変わってくるということ
- d 情報の受け手は、報告者自身の利害のために処理が施された情報を受け取るため、目的になかった情報を手に入れることは必ずしも可能ではないということ
- e 情報の受け手は、提供された情報の内容によって報告者の能力を推し量ることになるため、情報の質の良し悪しが報告者の評価を左右することになるということ

問8 本文の内容に合致するものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

15

- a ネット上でのコミュニケーションにおいては、日常会話の場合と違って、人は他者に認められたいあまりに自身の情報を加工して伝えようとする。
- b インフォメーションとインテリジェンスには、どちらも人や掲載された媒体を経由することによって他の人に伝えられるという特徴がある。
- c インフォメーションやインテリジェンスとしての情報は、なんらかの意図や解釈を伴っているという点で、汚染されたものであると言える。
- d 人間同士の間で情報のやり取りが行われる際には、情報の選別や作成といった行為を通じて、必ずなんらかの意図や解釈が伴うことになる。
- e 情報に解釈を施すのはそれを提供する側の行為であるため、同じ情報に対する受け手の理解度は一様になると考えられる。

II 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

人と人の関係の存在的な構造を考えようとすると、われわれに許される手続きには二つの道があるように見える。一つは、「間」という見方においてであり、もう一つは、「対」という見方においてである。一般に「鳥瞰図法 a bird eye view」と「対峙図法 dialogue/facing each other」という二つの視点である。

記録写真を撮る際のカメラマンのひとつの目線がある。地平線を見晴らす目線とでも言えようか、上空から漂いながら景観を一望するような視線である。

I 鳥の目線で世界を^(ア)ト^(ア)ラえようとする鳥瞰図法という方法である。科学・技術に基づくこの手法がわれわれの社会的人間関係を広く支配している。

また「あいつはいやなやつだ、だからつきあいたくない」と思う。また「あいつはいやなやつだが、少し見方を変えれば、あの手にも結構いいところがあるから、許せる」とも言う。そう考えるのは、私であつて、他の誰でもない。同じ事態は相手にも生じ、いずれも私と他者との間の対面・対峙的な次元の関係をさす。

II ケータイ(電話・スマホ等々の総称)が支配的な社会的風景を想定してみる。ケータイという機器が人間関係を根底から変えたという事態を想定する場合、ここでは、端的にケータイが人と人の関係を限りなく間接化する技術だという点である。直接的対話の常態的生活から、19世紀以後電話の技術が生まれ、発展を持続させてきた成果である。ケータイの「いつでも、どこでも」という^(イ)セン^(イ)デン用のキャッチフレーズは、家の片隅に固定されてあつたコード付電話が支配的であつた時代をすっかり忘れさせている。(i)もはや、ここという場の固定化を保証してきたコードに身をゆだねる時代ではない。少なくともケータイに象徴される社会生活における人間関係それ自体が場の固定からその浮遊へとという大きな質的変容を生みつつ、同時に相互に関係のより深い間接化の度合いを深化させる構造へと転換している。

B そうしたワイアレスな時代を生きるわれわれ個々の目線も相互にどんどん変わりつつある。近代化に不可欠な個人主義化(自由)の方向と、それにもかかわらず個人間をコミュニケーション化に定位するためには、人間関係における近接化と遠隔化のテ

クノロジをケータイの歴史的な意義は担っているのかもしれない。そこにはコミュニケーション技術とともに、Xも大きく変わりつつあることが明確である。遠目と近目が混濁する現象。遠くに目線が伸びる分だけ、人の気配すら感知しない人間群が生まれる。技術が人間の感覚を襲い、その関係をシンガイする。古人の方がよほど遠近感を心身で見抜いていたともいえる。「遠くて近きもの、極楽、舟の道、男女の仲」そして「近くて遠きは、田舎の道」ということわざがある。そこには遠みが注視され、近みが忘却される構造が隠されている。

あるいは対面的に会話で済むような近さにあっても、

Ⅲ

遠みにあると仮想させることも可能になる。鳥のように電波

が空中を漂うとすれば、われわれの意識が向かう目線の先もまた、それに伴って空中を漂うことになっていく。ケータイを使用開始するそのつど、その端緒から「いまどこ？」という問いかけが始まり、同じことが関係の相互に生じるのが日常である。虚空を見つめるような目つきをしながら、あるいは相互に隠れん坊を演じるように生きる。仮面舞踏会でマスク(ペルソナ・役割)を付けながらダンスに興じる。ゲームとして相手の現在の居場所をあえて問おうとしないこと、関係それ自体が空中を浮遊しながら、相互に居場所を問わないことを儀礼的關係として保証する。直接的体面や対峙をむしろ恐れる人間模様。

二つの顔、仮面と素顔の差異を文化として利用し始めたのは、西欧の歴史からすれば19世紀である。おそらく産業革命とともに文化の許容範囲が大きく拡張したことによる。近代文学が大きく大衆化とともに広がったことも関係しているはずである。「仮面」と「素顔」の關係がロマン主義という機運を生み出すものになったのも、その形式が明確に小説・文学の形式として利用され始めたことと密な關係があるはずである。(ii) ここでは推理小説も生まれ、ゲームとしての感覚が最大限応用され、大衆社会の遊び感覚とそれは合致したであろう。文化は虚構であると同時に現実であるところに面白みがある。しかしそれが現実そのものになるとき、いったいどういう現象が社会に生じることになるであろうか？ 今一度考える価値がある。E・レヴィナス(E. Levinas 1906 - 1995)の思想とともに、「仮面」ではなく、「素顔」としての「顔」が今また深刻に注目され始めている。

ある一つの術語がある時代のなかで注目され始めるということ、それはすでにその術語をとりまく現実の周辺でその術語のもつ意義が危ういということかもしれない。ここでは、人間の「顔」がもはや消え始めているということを暗示する。あるいは「顔」

が問題になる時代は、人間のコンセプトがそれ自体で危急存亡を迎えているということではなからうか？ 美顔術や美白という顔をめぐる化粧技術が幅をきかせる時代に、とりわけそのように見える。

インターネット社会の構造がまさにそうであるように、個人と個人の関係の全体化がおのずと拡大化されていく。(iii)ここでは新たな個人と全体の人工的構造化が、以前にもまして強化されていくようにもみえる。またそうした現象の反動として、自己他の対峙的な関係原理がやせ細り、それだからこそまた強く希求されるようなソクセキ(エ)も見いだされる。そうした構造のなかでは、もう一方で、他者そのものが見えなくなるという現象と自己としての個別的存在が見えなくなるような現象が、相即的かつ交錯的に生じてしまう。「最悪の疎外Dは他者によって自己が奪われるのではなく、他者を奪われることなのだ。」喪失される自己と喪失される他者という現象はそれ自体、相即して生じる問題局面である。その意味では、鳥の目線からする鷺掴みの管理社会を際限なく発展させるイデオロギーと新たに我なれ―汝あるいは自己―他者が構成する対峙的な思想との乖離かひりといった事柄が問われてきた。

さらにまた、ケータイに象徴されている世界、それは同時に「どこ」という場所性が確実に消滅していく世界でもある。限りなく「ここと今」という感覚を消すことよって成り立っている世界である。すでに「ウ・トポス(無場所…心ここにあらず)…ユートピア」になっている。問題は、「ここと今」の実感がたえず消去されていく世界、固定化を避けるという支配的感覚である。文字言語(メール)が鳥のように宇宙空間を飛び交うように、人間の目線もまたそうになっている。

今や人と人との「間柄」はケータイという機器の遠隔装置に全面的に吸収されてしまったのかもしれない。それは近代的個人の生活の合理性がもたらした帰結であり、合理性というものの真正銘の正体といえるかもしれない。間柄の合理的関係をさらに深化発展させようとすると言葉のスキルを磨くしかない。(iv)むしろ直接的言葉をもはや必要としないかにさえ見える。

他方で、電車のなかで背を丸くしながらケータイを間近に「睨みつける」あるいは「見据える」かのようなまなざしをしている人、またメールに耽ふけりながら喜怒哀楽の表情を湛たえる人、いずれも今日ごくありふれた光景である。「嵌はまる」がどこまでもパソコ

ンにふさわしい言葉だといえたのも、状況が孤立した部屋での営みだからである。それに対してケータイを見つめる光景は、そのほとんどがパソコンの孤立した空間がそのまま公共の場にせり出している姿である。(v) おそらく個室にあるとき以上に、個人が集まる場所ほど相互に類似性が強く働くのであろう。個人と他人の間に、近接化と差異化の同時性が生じるが、それはラッシュ時に新聞にしがみついていた時代とほとんど相似形である。脇目もふらず同じ日常的空間のなかでひたすら静かにケータイに「耽る」人々、と同時に、そこにも「(オ)ここと今」から離れた人々の群れがある。

まさに現代は、人間が世界のどの地点にいても、世界のなかの私を効率的に消失する時代である。逆に私自身によって像化された世界のなかでしか居場所がない人間、それが現代の人間の姿である。周りにいる人間は自分にとって可能なかぎり無関係な人間であつてほしいし、またそうであつて初めて私の位相が定まる。「ここと今」はどこまでも空間の中性的な一点でしかない。おそらく無意識的にそうした状況に対する反動もまた計り知れないものがある。私たち一人ひとりがおかれている「状況的存在」の位相が喪失していくからであろう。「メル友」の数の多さが友人不在の不安を解消するという悲愴ひさびさな現象を生むこともある。あるいはケータイの存在それ自体が脅威になり、道具が他者にも変じる。ケータイがないと不安だ、ケータイがあると怖いという事態がいつでも生じる。そのいずれもが現代の感覚的表現であり、まさに現代のジレンマであると同時に、人間をカプセル状に包んでいる現代技術社会の実相である。

(河上正秀『知覚の変容と私たちの文化 在ることへの問い』による)

問1 傍線部(ア)～(オ)に該当する漢字を含むものを、次の各群のa～eの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

16

20

(ア)

トラえ

16

- a 相手をソクバクする
- b ヘイソクカンが漂う
- c 厳しいキソクを定める
- d 犯人をホソクする
- e 突然シヨウソクを絶つ

(イ)

センデン

17

- a 後任にスイセンする
- b 化学をセンモンにする
- c 時代のヘンセンをたどる
- d センリヨな行動をとる
- e 病名をセンコクする

(ウ)

シンガイ

18

- a 新たな文化がシントウする
- b 敵のシンリヤクを受ける
- c 世間をシンカンさせる
- d 会社が経営フシンに陥る
- e シンチヨウに事を運ぶ

(工) ソクセキ

19

a 人生のキセキをたどる

b 原因をブンセキする

c 失敗のセキニンをとる

d 事務所をイセキする

e 他者をハイセキする

(オ) ショウソウ

20

a コウショウな理念を掲げる

b 大会でショウジョウをもらう

c 戦争で一面ショウドと化す

d ショウサイな説明を加える

e 病気をハッショウする

問2

空欄

21

I

く

III

に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の a ～ e の中から一つ選びなさい。

a I あるいは

b I つまり

c I いわゆる

d I なぜなら

e I すなわち

II 要するに

II むしろ

II たとえば

II さらに

II かりに

III ましてや

III しかし

III かえって

III もしくは

III それゆえに

問3 傍線部A「ケータイという機器が人間関係を根底から変えた」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

22

- a ケータイが現代人から人間関係を上空から見晴らす視線を奪い、近視眼的な人間関係しか作れない人々ばかりになったということ
- b ケータイが人と人との対話を直接的なものから間接的なものへと変化させ、同時に人間関係を対峙的な次元から引き離れたということ
- c ケータイが「あいつはいやなやつだ、だからつきあいたくない」と思えば顔を合わせなくても済むような技術であったということ
- d あらゆる人間関係において、ケータイを介してつながるようになったことで、ケータイが現代社会を支配しているようだとということ
- e 人間関係の存在的な構造を考えようとするとき、ケータイという機器を考慮に入れずに、もはや論じることができないということ

問4 次の一文は、本文中の(i)～(v)のうちのどの部分に付け加えることができるか。最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

23

それは対話という内実を決して形成することはなく、そこでは言葉の技術化しか相乗的に生まれない。

- a (i)
- b (ii)
- c (iii)
- d (iv)
- e (v)

問5 傍線部B「そうしたワイアレスな時代」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

24

- a ケータイによって「いつでも、どこでも」つながれるために、人間関係のあり方が空疎なものになっている時代
- b 家の片隅に固定されてあったコード付電話が衰退し、場で固定された人間関係もともに消滅してしまった時代
- c ケータイは個人間のコミュニケーションを促進したが、そのことがかえって人間関係の距離感を鈍らせている時代
- d 住宅という場所に置かれた固定電話より、個人に属するケータイというコードのいらぬ携帯電話が普及した時代
- e 場の固定化に紐づいた固定電話に代わったケータイという携帯電話が、人間関係自体を流動的なものに変えた時代

問6

空欄

X

に入る内容として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

25

- a 人間関係の遠近の知覚
- b 近代の個人主義的な立場
- c 人々のコミュニケーション能力
- d 個人間に存在する物理的距離
- e 意思の間接的な伝達手段

問7 傍線部C「仮面舞踏会でマスク(ペルソナ・役割)を付けながらダンスに興じる」とはどのようなことの比喩か。次の「仮面舞踏会」についての説明も参考に、その説明として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

26

仮面舞踏会——参加者が仮面をつけ、互いの素性を隠したまま行われる舞踏会。参加者は他者に扮装し、身分を偽って交流することもある。

- a お互いが対面で会話できるような距離にいたとしても、遠いところにいると仮想して電話を楽しむということ
- b ケータイという機器には場の固定化は不要であるのに、お互いの第一声が「いまどこ？」で始まるということ
- c 直接的体面や対峙を恐れるあまり、ケータイを介してのやり取りが「素顔」としての「顔」になっているということ
- d 相手の現在の居場所をあえて問おうとせず、鳥のように意識を虚空に漂わせて表面的な会話を続けているということ
- e ケータイを使用する度に、相手やコンテキストに応じて、その場にふさわしい役割を演じようとしているということ

へりハビリテーション学部志願者のみ解答してください

問8 傍線部D・Eの意味として最も適当なものを、次の各群のa～eの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

D 27

E 28

D 疎外

a 自分にとって不都合なこと

b 物事の進行をさまたげること

c 人間らしい生きがいを失った状態

d 本来あるべき自己の本質から遠ざけられること

e 人間が作り出したものに人間が支配されている状態

E ジレンマ

a 一つの場合に相反する二つの意味が含まれていること

b 二つの事柄が互いに矛盾したまま存在すること

c 二つの選択肢のうちどちらも選べない状態のこと

d 普通とは反対の方向から考えを進めていくこと

e 自分の言説や行動が首尾一貫していないこと

〈リハビリテーション学部志願者のみ解答してください〉

問9 本文の内容に合致するものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

29

- a インターネット社会は、個人と個人をつなぎながらネットワーク化しているが、同時に自他の対峙的な関係が希薄なものとなり、他者の存在が見えなくなるとともに自己の存在も見えなくなっている。
- b 個人主義は近代化に不可欠な要素であったが、多くの人がケータイという自己拡張機能に支配された現代では、むしろコミュニケーションのスキルを磨いて間柄を深化発展させる意義が高まっている。
- c ケータイという機器は、合理性を追求してきた近代がいきついた究極の形と言えるが、社会の基盤である人間関係を質的に大きく変容させ、限りなく間接化してしまった点で、現代技術の弊害でもある。
- d 電車の車内という人が大勢集まる場所で、周囲を遮断する孤立した空間を現出させるかのようにケータイに没頭する人々の姿は、「私」が世界のなかに埋没する時代であることを物語っている。
- e ケータイが会話の道具でありながら直接的言葉を必要とせず、相互に居場所を問わないことが暗黙のルールとなっているのは、ただ誰かとつながっていることだけに価値を見いだす世相を反映している。

〈看護学部志願者のみ解答してください〉

問10 波線部「ケータイに象徴されている世界」とあるが、あなたと世界や他者とのつながりにおいて、ケータイはどのような存在か。本文の内容を踏まえ、かつあなた自身の経験に触れながら、二百字以内で解答用紙に述べなさい。

30

注 意 事 項 続 き

3 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。マークは**HB**または**B**の鉛筆（シャープペンシル可）で濃くマークしなさい。解答用紙を折ったり曲げたりしてはならない。

例えば

2

 と表示のある問に対して **c** と解答する場合は、次の(例)のようにマークシートの2の解答欄の **c** にマークしなさい。

指定欄以外へマークした場合は解答が読み取れなくなる場合があるため、記入しないこと。訂正は、消しゴムできれいに消すこと。

(例)

(マークの仕方)

解答 番号	解答欄				
	a	b	c	d	e
1	(a)	●	(c)	(d)	(e)
2	(a)	(b)	●	(d)	(e)

良い例	悪い例
●	

4 看護学部志願者にはマークシート式解答用紙に加えて記述式解答用紙の受験番号欄に受験番号5桁を記入しなさい。氏名を記入してはならない。

受験番号
00603

看護学部志願者用
 国語 II 問10 解答用紙

下書き用紙

書き
 ます

5 試験終了後には、リハビリテーション学部志願者は問題冊子の上にマークシート式解答用紙を裏返して置きなさい。看護学部志願者は問題冊子の上に記述式解答用紙を裏返し、その上にマークシート式解答用紙を裏返して置きなさい。解答用紙の回収後は監督者の指示に従うこと。

6 問題冊子は持ち帰ること。